

～茨城から生まれた才能を発信！～
～茨城県の才能豊かな若者たちが、新作舞台の稽古を開始！～

『目指せ ミュージカル水戸黄門？』稽古ご取材のお願い

この夏、いばらき大使の安達勇人を中心に、舞台やミュージカル、ダンス、マジック、伝統芸能などの異なるジャンルで全国的に活躍する、才能豊かな茨城の若者たちが水戸芸術館 ACM 劇場にて一堂に会する新企画を上演します。

「ミュージカル水戸黄門」の開催に向け、奮闘する若者たちの姿を描く舞台作品と、出演者たちのショーのどちらも楽しめる二部構成でお贈りするこの新企画の稽古をプレスの方に公開します。

地元・茨城を盛り上げるため、コロナ禍の中でも夢を持ち続けることの大切さを届けるため、新作舞台へ挑戦する出演者たちの姿を広くご紹介いただけますと幸いです。

取材をご希望の際は、お電話またはファックスにて事前に下記までご連絡をお願い致します。

新・未来サポートプロジェクト ADACHI HOUSE ラボ vol.1

『目指せ ミュージカル水戸黄門？』稽古取材

日時 7 月 2 日(金)、9 日(金)13:00～(12:40 受付)

※出演者全員が揃って行う稽古はこの 2 日間となります。

※17:00 までご取材いただけます。※通し稽古ではございません。

会場 水戸芸術館 ACM 劇場

構成・脚本：井上桂(当館演劇部門 芸術監督) 構成・演出：橋本昭博(ひたちなか市出身)

出演者 安達勇人(歌手・俳優・声優／桜川市出身)、加藤良輔(俳優／水戸市出身)、
神田真紅(講師／水戸市出身)、ICHI(ダンサー／土浦市在住)、
TAKU(ダンサー／かすみがうら市出身)、塚原ゆうき(マジシャン／古河市出身)

※出演者プロフィールは別紙参照

※上記日程がご都合悪い場合には、下記日程内でのご取材も可能です。

ご取材可能日：6 月 22 日(火)～25 日(金)、7 月 1 日(木)、7 月 8 日(木)

※写真撮影、出演者インタビューのご要望にもご対応します。時間などは別途ご相談させて下さい。

水戸芸術館 広報係 担当：川崎宛

<ご取材お申込み用紙>

FAX：029-227-8110

TEL：029-227-8111(代表)

御社名 _____

希望日： 月 日

御芳名 _____

人数 名

TEL _____

□出演者インタビューご希望(出演者名：)



安達勇人 歌手・俳優・声優 桜川市出身

いばらき大使として茨城県内を縦横無尽に「茨城県を元気にする」活動を繰り返している安達は、子どもの頃から剣道に熱中し高校三年の時には団体戦で全国制覇を成し遂げたほどのタフガイです。剣道を通じて身に付けたタフネスぶりで、飛び込んだ芸能界でも大活躍、多くの作品でタイトルロールを勝ち得てきました。持ち前の明るさと、めげない実行力を引っ提げて、現在は笠間市を拠点に茨城を元気にする幅広い活動を繰り返しています。数年後には県内で数万人のライブを実現すべく文字通り走り回る日々ですが、出会う人すべてを笑顔にするユニークなその活動に、日々多くの仲間が増えています。

あだちゆうと…ミュージカル『忍たま乱太郎』『王室教師ハイネ』の出演のみならず、茨城県を盛り上げるため 2018 年から 1500 人規模の町おこし音楽フェスを開催するなど、いばらき大使としても精力的に活躍中。2020-21 年は単独での東名阪 Zepp LIVE ツアーを開催。カフェ、ファッションブランドなどのプロデュースもしている。



加藤良輔 歌手・俳優 水戸市出身

高校時代に観たボーカルユニットに魅せられ、思い切って高校生のうちから単身東京に移り住み、修業を重ねた覚悟の日々。父との約束の期限直前にミュージカル『テニスの王子様』で、見事に鮮烈なデビューを果たします。しかもこのミュージカルは、今や演劇界の一大潮流である「2.5 次元ミュージカル」を確立させたエポックメイキング的大ヒット作。そしてこの作品は、加藤良輔という才能も同時に送り出したのです。それを出発点に、加藤は歌手・俳優として、舞台、映像など活躍の場を大きく広げてきました。最近では、そんな自分の経験や知見を、夢を目指す地元の若い世代に託したいと心に決めています。

かとうりょうすけ…2004 年ミュージカル『テニスの王子様』でデビュー。以来ミュージカルからストレートプレイまで幅広く活躍するオールラウンドプレイヤー。RSK 名義でのアーティスト活動も行っている。水戸芸術館 ACM 劇場プロデュース音楽劇『夜のピクニック』には初演に引き続き、昨年コロナ禍で上演された再演にも出演。



神田真紅 講師 水戸市三の丸出身

子どもの頃から生粋の歴女で大学も史学科に進んだ真紅は、ひょんなことから飛び込んだ講談の世界で、その人生の全ての経験が講談に繋がってしまった稀有な状態の真ただ中。芸の完成を 70 歳の自分に置いている真紅は、その大器晩成の道のを逆計算して、日々研鑽の毎日です。そんなスケールの大きい自己プロデュースは、古典芸能の世界ならではのかもしれませんが、水戸藩の題材が多くある講談は、水戸出身の真紅にはすでに大きなアドバンテージです。この比類ない環境の真紅が、今注目の講談界で、これからどう大きく育っていくのかそれも楽しみです。

かんだしんく…大学で歴史学を学び、編集者を経て神田 紅に入門。日本講談協会・落語芸術協会所属の二ツ目。古典『水戸黄門漫遊記』はもちろん、新作でも水戸の歴史にまつわる講談を多く手掛ける。NHK ラジオ第一「日曜バラエティー」レギュラー出演(2019 年 3 月まで)。この春、JR 東日本企画『歴史漫談 水戸漫遊』のナレーションを担当。新国立劇場演劇公演『斬られの仙太』関連企画で、ミニ講談も HP で披露した。

ICHI TAKU ストリートダンサー



1980年代、若者文化として始まった日本のストリートダンスは、2008年には中学校の必修科目となり、2024年のパリ・オリンピックの追加正式種目になるほど急速に広がりました。実は茨城県は、日本のストリートダンス黎明期だった1990年代から、全国に先駆けて世界レベルのストリートダンサーを輩出してきたストリートダンス先進地です。国内はもちろん海外でも大活躍した第一世代が作り上げた実績とカルチャーが、今も連綿と受け継がれ、第一世代同様国内外で活躍する後進のダンサーが数多く育っています。その新しい世代に属する茨城の素晴らしいストリートダンサーが、ICHIとTAKUです。

二人が活躍を始めた頃、SNSやYouTubeが発達し世界中のアーティストたちが直接繋がるようになりました。つまり、大都市経由でないと世界と交流できなかった時代が終わり、流行や文化的な面では世界の都市間格差がほぼ無くなったことを意味しています。それにいち早く反応し、世界を相手に活動を始めたのが、茨城のストリートダンサーたちなのです。

この二人の活躍の紹介もちろんですが、こうした茨城のストリートダンサーの紹介は、硬く言えば「地域に居ながら世界と交流し、地域の魅力を世界に伝えた素晴らしい事例」でもあり、「新しい形で茨城を世界に伝えている最先端の活動紹介」でもあります。また、その道のりと活躍を辿ることには、これからの茨城や日本の進み方に大きなヒントも与えてくれるはずです。

ICHI(いち)・・・2008年よりLAに渡り、The lockersのメンバー等、数々のOG達から確かな技術、ダンスの歴史を直接学ぶ。今や日本屈指のLOCKERで、国内外の様々なBATTLEで優勝経験を持つ茨城のPURE FUNK DANCER。エナジー溢れるスタイルが持ち味。香港、イギリスなど海外でもワークショップやジャッジを行っている。土浦市在住。

TAKU(たく)・・・キッズ時代よりコンテスト受賞歴は50以上。日本最高峰のダンスコンテスト「JAPAN DANCE DELIGHT」でも特別賞受賞。講師、ワークショップなど後進の指導も積極的に行っている。また自分がプレイヤーとして活躍するだけでなく、コンテストやバトルイベントなどのジャッジも務めている。かずみがうら市出身



塚原ゆうき マジシャン 古河市出身

小学生の時にマジックに魅せられて、それ以来マジックを色々な形で追求してきた若干22歳の塚原ゆうき。将来は茨城でイベント・プロデューサーになろうという夢に向かって邁進中です。この世界に飛び込んだ時から、芸のネタになるならどんな経験でもしてやろうという腹の座った行動力や、やるとなったら何でもとことんやり遂げてきた実行力が、この若者の持ち時間を濃厚なものとし、今やある種の風格すら与えています。その貫禄のエンターテインメントは既に一流で、見る人を必ず魅了してくれます。将来の大物間違いなしと確信させてくれる期待のマジシャンです。

つかはらゆうき・・・18歳でプロデビュー。テーブルマジックから大迫力のイリュージョンまで、多彩なネタを武器に年間400ステージ以上ものパフォーマンスを行ってきた若干22歳の実力派若手マジシャン。地元茨城県を盛り上げるため、県内各所のイベントや商業施設等に積極的に出演し、古河大道芸フェスティバルも主催している。

Staff

構成・脚本 井上 桂（水戸芸術館演劇部門芸術監督）

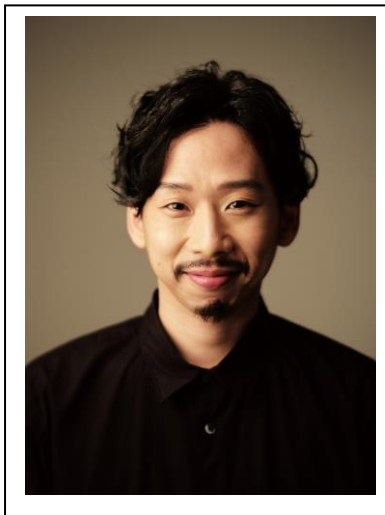


岩手県出身。

大学生時代より野田秀樹氏の夢の遊眠社、井上ひさし氏のこまつ座などから演劇に関わり、大学卒業後は演出部・舞台監督・舞台制作者として活動し、1996年の新国立劇場の開場とともに演劇制作部プロデューサーとして、渡辺浩子、栗山民也両芸術監督の下、企画制作を行う。2005年新国立劇場に国立としては初の俳優養成の研修所が開設されるとその運営を栗山氏と'10年まで担う。以降はフリーとして活動しつつ、'12年より日本芸術文化振興会プログラムオフィサー（演劇部門）に就任し、文化事業に関わる様々な委員などを歴任。'17年4月、水戸芸術館演劇部門芸術監督に就任。

国内で初めてとなる宮崎駿オリジナル作品の舞台化（『最貧前線 宮崎駿の雑想ノートより』）などで、水戸芸術館を改めて全国に紹介するなどの活動を行っている。

構成・演出 橋本昭博



茨城県ひたちなか市出身。

桐朋学園芸術短期大学卒業。俳優・演出家・Moratorium Pants 主宰、小美玉市 文化創造コーディネーター。12歳で初舞台を踏み、2011年、演劇プロデュースユニット Moratorium Pants を旗揚げ。全作品のプロデュース・演出を手がける。詩人の谷川俊太郎氏の作品やオリジナル作品を上演。『新羅生門』『リボンの騎士』（'11年、横内謙介作・演出）、てがみ座『汽水域』（'14年、扇田拓也演出）など外部公演への出演も多数。他にも、'13年シンガポールとの国際共同制作舞台に出演、'14年上田慎一郎監督映画『彼女の告白ランキング』で水戸短編映像祭ベストアクター賞受賞、'15年ユース非核特使として世界一周、表現教育指導者として教育現場でも活動を展開するなど、多岐に渡って活動中。

'19年3月には、穂の国とよはし芸術劇場 PLAT で「2018年度 市民と創造する演劇」でシェイクスピアの『リア王』の演出を担当する。また'21年から小美玉市の文化創造コーディネーターに就任。

水戸芸術館 ACM 劇場には『十二夜』（'15年、森新太郎演出）、音楽劇『夜のピクニック』（'16年、深作健太演出、『海辺の鉄道の話』（'18年、詩森ろば作・演出）の出演に続き、今回が初の演出としての参加となる。

演劇プロデュースユニット モラトリアムパンツ

<https://moratoriumpants.wixsite.com/mp2016>